
終わりの

鴻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わりの

【Nコード】

N1206T

【作者名】

鴻

【あらすじ】

長い付き合いで両親とも知り合いだから、こんな家の中じゃ、居心地悪いだろうに。縋りつくわたしの手なんか、こっぴどく振り払ってしまっただけなのに。——そう思ってるのに、その手に縋りつきたいわたくしが居る。

誰にも「助けて」と言えない女の子が、幼馴染の男の子にだけは、な話。

*以前所持していたサイト（&blog）からの転載です。

（前書き）

家庭内不和／離婚／シリアスです。

勝手にすれば良いのに。

何時も、わたしはそう思う。

部屋を真っ暗にして、ヘッドホンを耳に被せて。

…大音量で、音楽を聴くのだ。

暫くそうしていると、ひゅうつ…と風が部屋に入ってくる。

この、失望と悲しみと達観が満ちる、わたしの部屋に。

「…また？」

風を感じてヘッドホンを手放せば、窓から侵入してきた紫^{ゆかり}が少し悲しそうに言う。

ヘッドホンが、雑音とも取れる音楽を、少量だけ流しているのが耳につく。

「何時もの、事だし」

「そう」

小さな沈黙の後、紫は言った。そして、そのまま——窓の縁に腰掛けたまま——紫^{ゆかり}は、腕を広げる。

だから、わたしはその腕の中に飛び込む。

両親の、親の言い争いの声なんか 聞きたくない。
抱き付いた紫^{ゆかり}の体温と、心音に…無性に安らいだ。

浮気にお金関係。

言い出したらキリが無い不満。

離婚と言葉。

そして行き着く場所はわたし（子供）。

紫の腕の中では、不快な現実を忘れられる。

逃げたいんじゃない。

どうこう、したい訳でもない。

何時から、家が。

家庭が、どうして狂っていったかをひたすら考える。

——もう、わたしにはどうにも出来ない事を知っていても、だ。

隣の家に住んで、生まれた時からお隣さんの紫には面倒くさい事をさせているなあ…とは、思う。

紫、って言う名前でも、男なんだからこんな所を見つけたら何か言われるかもなのに。

どうしても、この幼馴染には敵わない、から…。

わたしは、抗えずにこの腕の中に納まってしまう。

長い付き合いで両親とも知り合いだから、こんな家の中じゃ、居心地悪いだろうに。

縫りつくわたしの手なんか、こっぴどく振り払ってしまっただけ構わないのに。

………わたしの頭を撫でてくれる手は、無条件に優しい。

その優しさに、泣きたくなって。

ごめんなさい、と心の中で呟く。

ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

自分が、子供だつて事に。

知りたくも無いのに、知らされる。

抗う力も無く、だからと言って素直に受け止められない結論が出る日も…近い事は、分かつてる。

近い内に、わたしはこの腕を失う。

この、体温も。

この、心音も。

仄かに色付いた想いが、色褪せる事も。

明確な事など、何も言っていないけど、紫は分かつてるんだと思う。

——親が、こんな状態になってから、紫の訪問回数が増えた、から——。

だから、何も言わないし、聞かない。

全てに対して、無力なほど無力だと…解ってしまっているから。

ごめんなさい。

ごめんなさい。

でも——今、だけは。

この腕の中で安らぐ事を赦して。

（後書き）

実は紫視点もある。けれども、仄かな恋愛を滲ませただけでも良いかなあ、と多少思う。

紫視点の方が恋愛色が強めなので恋愛キーワードにしてみたが、何処にデータが逝ったのか…（ちょ！？↑）

以下、ちょいと長めな裏…ではなく、登場人物紹介。

文中で登場人物の詳細を入れる必要性を感じなかったので入れませんでした。一応判り難い！と思う方の為に。

□わたし　　ななしです。スミマセン；

一人っ子。子供っぽいのに何処か達観している感じの冷静さを持つ人。

一応この人の心情メイン。

□紫^{ゆかり}

男だけど女のような名前。「わたし」のお隣さん兼幼馴染。

以前は名前にコンプレックスがあったようですが、現在は達観しております（内容に一切、全く関係の無い情報）

□「わたし」の両親

現在仲違い中。修正不可能範囲に二人して足を踏みこみ、家庭内泥沼。

この人らは上の文だけで十分かと。多くは語りません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1206t/>

終わりの

2011年10月9日02時44分発行